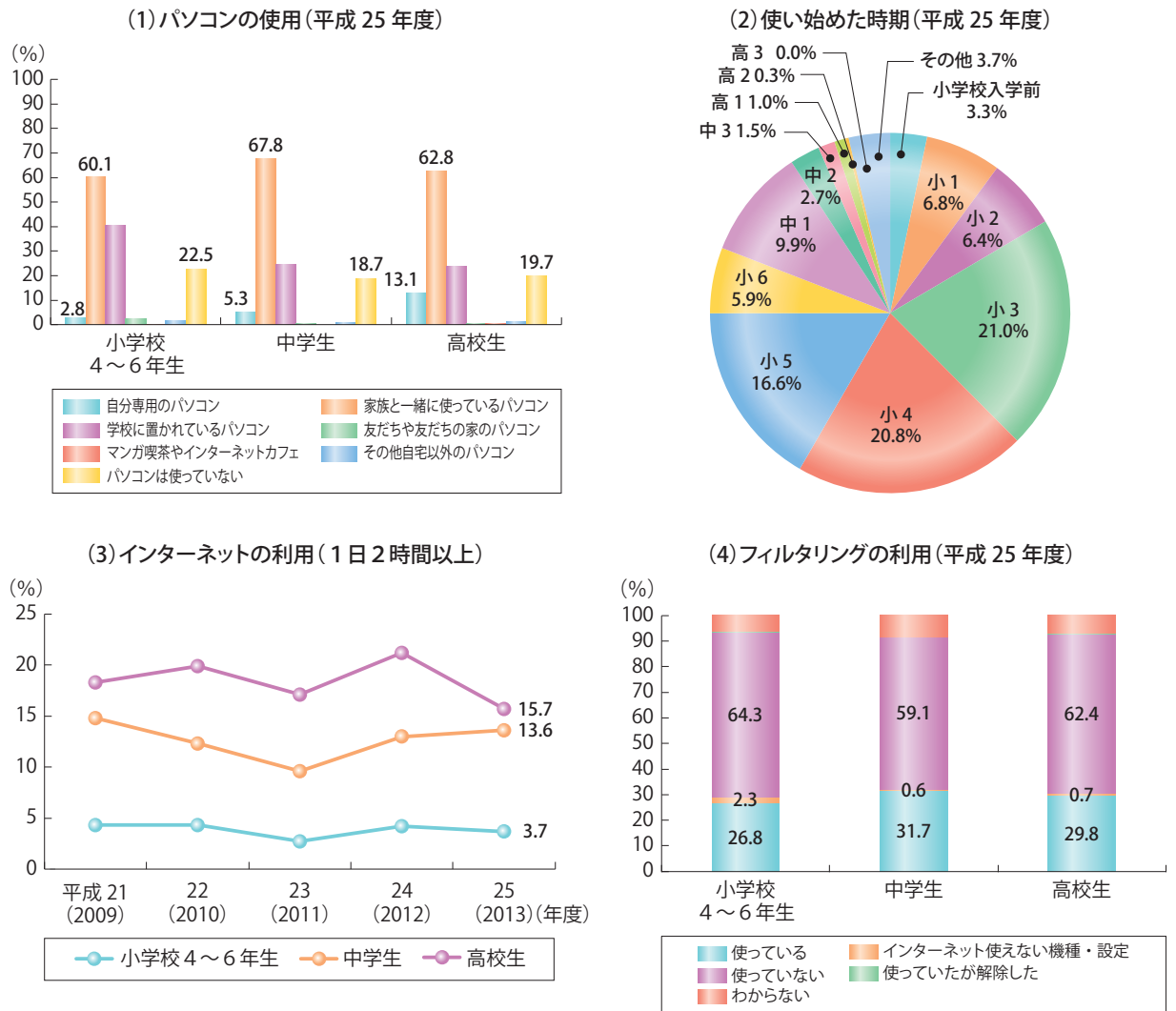


パソコンを使い始めた時期は、小学校1～3年生が3割強、小学校4～6年生で約4割を占める。(第1-6-14図(2))

パソコンで平日1日当たり2時間以上インターネットを利用する者は、中学生で13.6%、高校生で15.7%となっており、携帯電話でのインターネット利用と比べると、相対的に低い。(第1-6-14図(3))

フィルタリングやインターネットを使えない機種・設定にするなどインターネット利用に何らかの制限が行われている者は、小学校4～6年生の約3割、中学生の3割強、高校生の約3割となっている。(第1-6-14図(4))

第1-6-14図 パソコンの利用状況

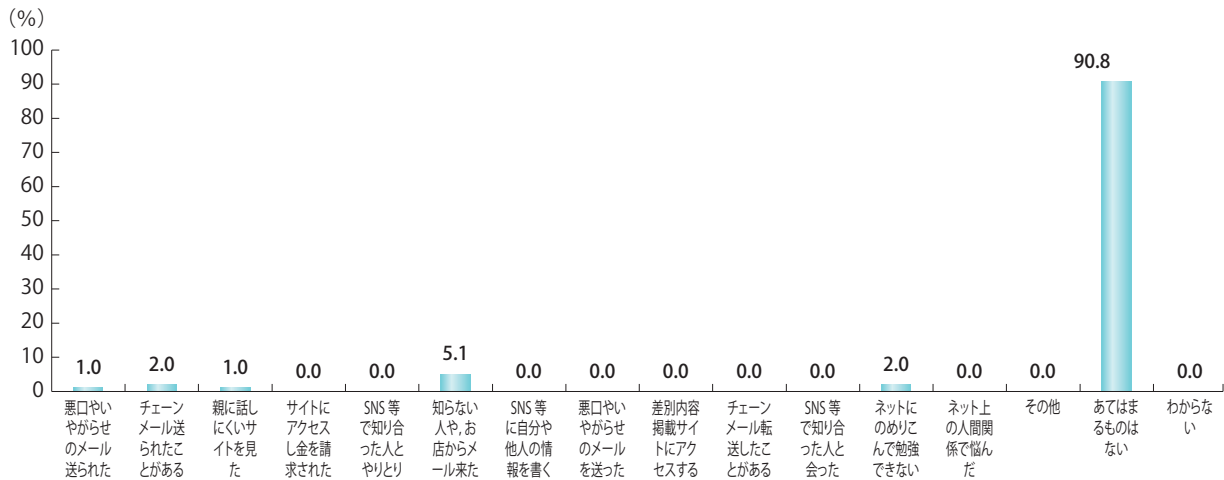


(出典) 内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」
 (注) (4) 以外は10歳から17歳までの者に対する調査の結果、(4) はそれらと同居する保護者に対する調査の結果。

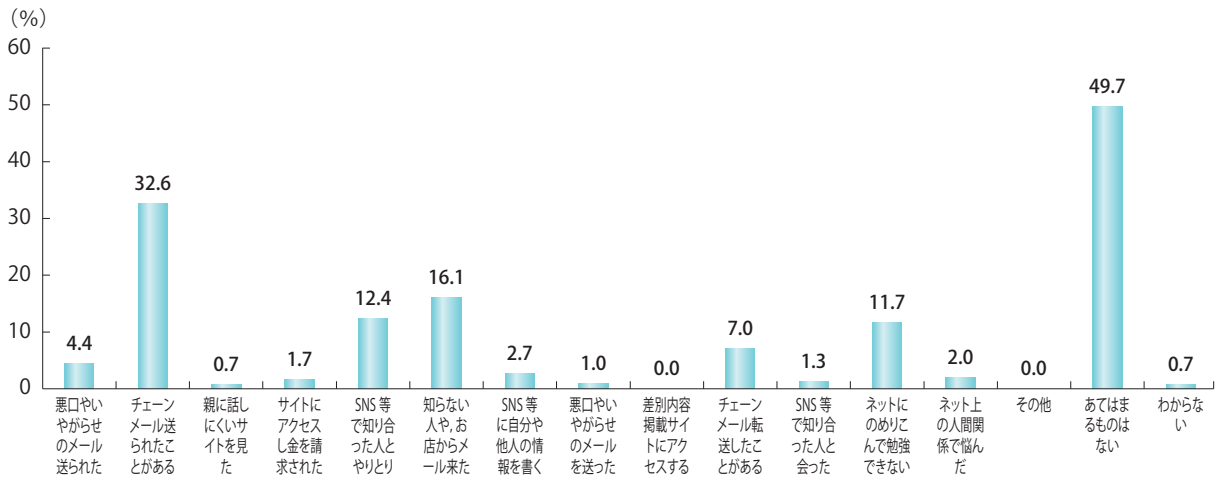
携帯電話におけるインターネット上のトラブルや問題行動に関連する行為の経験をみると、年齢層が上がるほど、トラブルなどを経験する割合が高い。全体で最も多い「チェーンメールが送られてきたことがある」は、小学生では2.0%であるが、中学生(32.6)と高校生(33.6%)では最も多い。中学生・高校生では、次いで、「自分が知らない人や、お店などからメールが来たことがある」「SNSサイトやゲームサイト、メッセージやチャット等で知り合った人とやりとりしたことがある」「インターネットにのめりこんで勉強に集中できなかつたり、睡眠不足になつたりしたことがある」が多い。(第1-6-15図)

第1-6-15図 携帯電話におけるインターネット上のトラブルなどの経験（平成25年度）

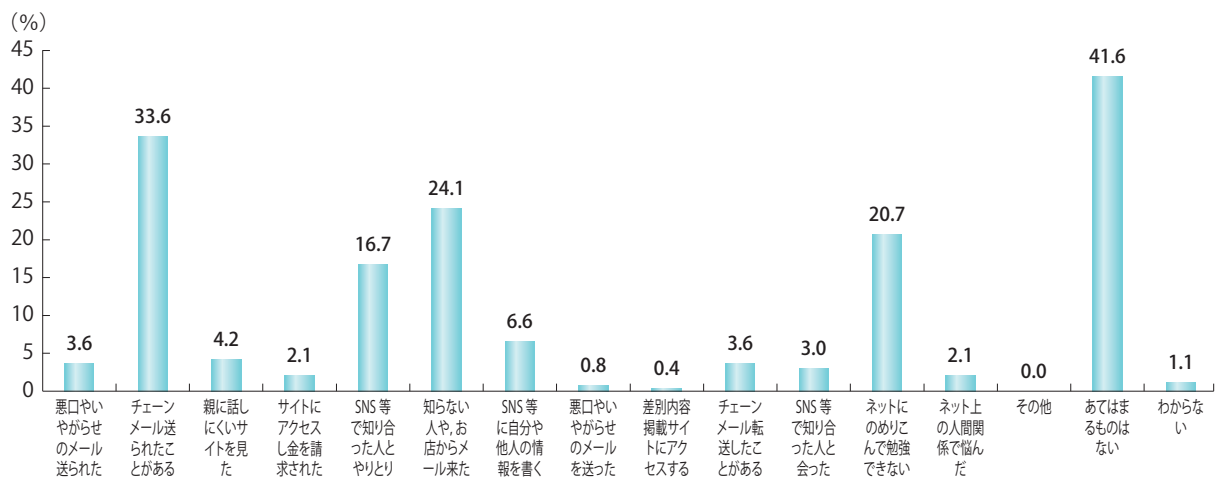
(1) 小学校4～6年生



(2) 中学生



(3) 高校生

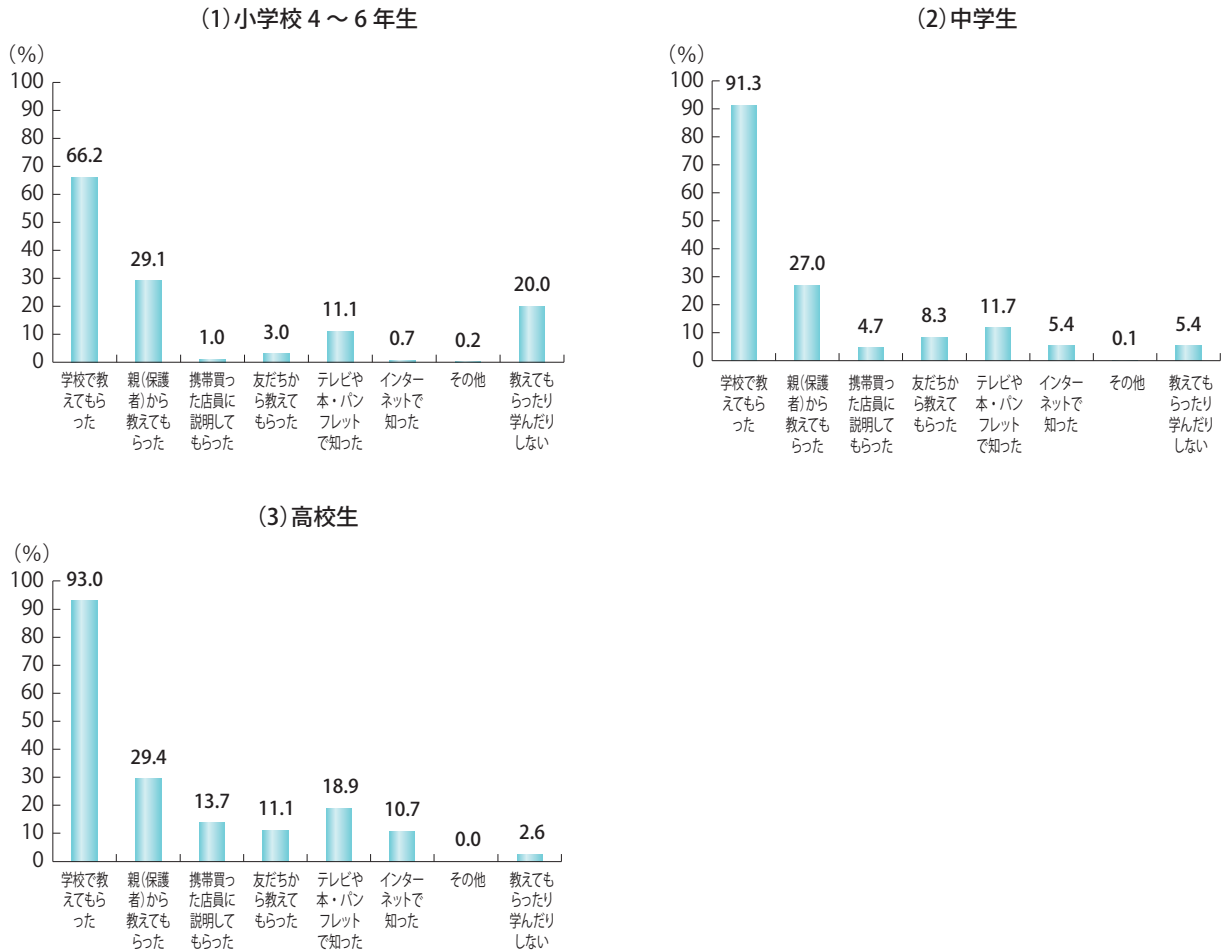


(出典) 内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」

インターネットの危険性について説明を受けたり学んだ経験をみると、「学校で教えてもらった」が、小学生では66.2%であるが、中高生では9割強に達している。一方、「特に教えてもらったり学んだことはない」は、高校生（2.6%）ではほとんどみられないが、小学生では5人に1人（20.0%）

となっている。(第1-6-16図)

第1-6-16図 インターネットの危険性に関する学習の経験 (平成25年度)



(出典) 内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」

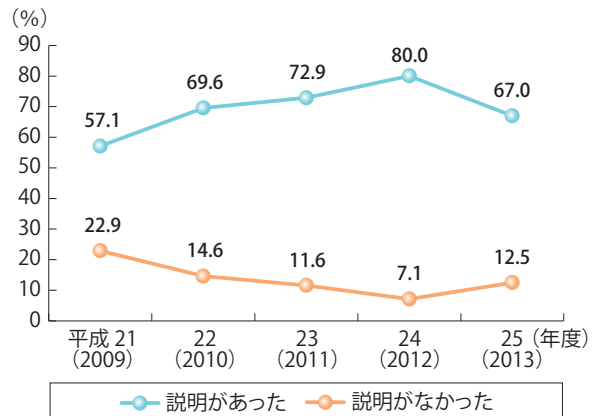
子どもが自分専用の携帯電話を持っている保護者に対し、携帯電話を購入する際に販売業者からフィルタリングに関する説明を受けたかを聞いたところ、上昇傾向にあった「説明があった」が平成25(2013)年度に低下した。(第1-6-17図)

(5) 異性との交際状況

18～34歳の未婚者のうち交際している異性がない者の割合が上昇傾向。

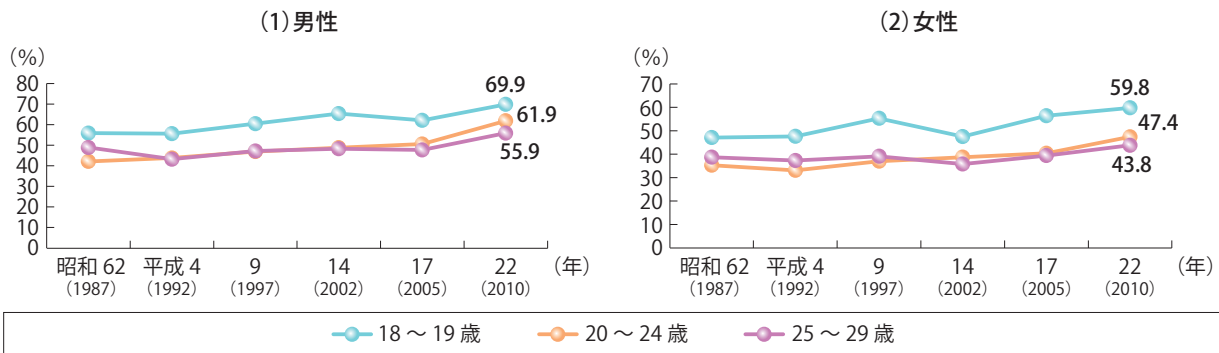
未婚者の異性との交際状況を見ると、交際している異性がない者の割合が男女ともにいずれの年齢層でも上昇傾向にある。平成22(2010)年には、18～19歳の男性の69.9%、女性の59.8%、20～24歳の男性の61.9%、女性の47.4%、25～29歳の男性の55.9%、女性の43.8%となっている。(第1-6-18図)

第1-6-17図 携帯電話販売業者によるフィルタリングに関する説明状況



(出典) 内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」
 (注) 「説明があった」「説明がなかった」以外に、「覚えていない」「このための購入ではなかった」「わからない」の選択肢があるが、それらについては省略している。

第1-6-18図 交際している異性がない未婚者の割合



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査(独身者調査)」

第2節 意識

1 幸せ感、不安や悩み

(1) 幸せ感

幸せだと思う小学生・中学生・高校生等の割合は上昇。

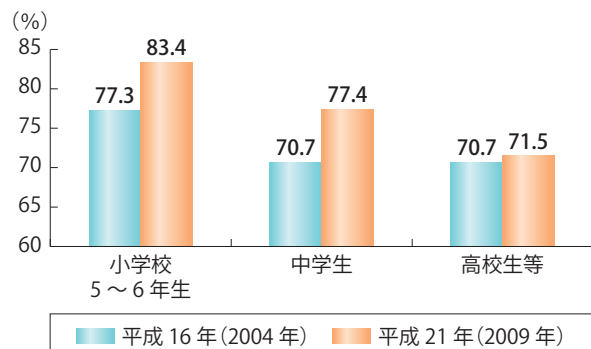
今、幸せかどうかの状況を見ると、小学校5～6年生、中学生、高校生のいずれでも幸せだと思うとする者の割合は、平成16(2004)年と比べ平成21(2009)年は上昇している。小学校5～6年生の83.4%、中学生の77.4%、高校生等の71.5%が幸せだと思うとしている。(第1-6-19図)

(2) 不安や悩み

不安や悩みを抱えている小学生・中学生・高校生等の割合も上昇。不安や悩みの主な内容は勉強や進路。

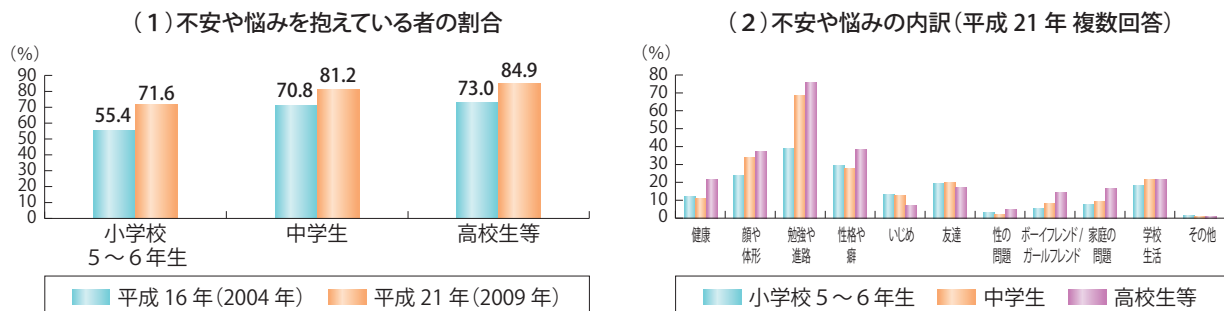
不安や悩みを抱えている小学校5～6年生、中学生、高校生の割合も、平成16(2004)年と比べ平成21(2009)年は上昇している。小学校5～6年生の71.6%、中学生の81.2%、高校生の84.9%が何らかの不安や悩みを抱えている。不安や悩みの内容をみると、いずれの年齢層でも「勉強や進路」が最も多いが、特に中学生と高校生でその割合が高い。(第1-6-20図)

第1-6-19図 幸せ感(幸せだと思う者の割合)



(出典) 厚生労働省「全国家庭児童調査」
 (注) 1. 高校生等とは、高校生と、各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒の合計。
 2. ここでいう幸せだと思う者とは、「今、幸せだと思うか」との問いに対し「とても幸せだと思う」「やや幸せだと思う」と回答した者の合計。

第1-6-20図 不安や悩み



(出典) 厚生労働省「全国家庭児童調査」
 (注) 高校生等とは、高校生と、各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒の合計。